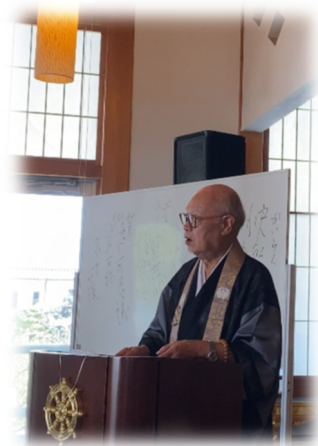


浄泉寺報

第38号
2024年
秋彼岸



助かるということ

浄泉寺住職 望月廣三

苦しみから助かることをお釈迦さまは何とおっしゃってられるか？「抜苦与楽」（苦を抜いて楽を与える）と教えられています。ここで大いに問題になるのは、「抜苦」の「抜く」という意味内容です。ピンセットでトゲを抜くように抜ければいいんですが、そういうわけには行かない。このトゲは心のトゲですから、簡単には抜けないでしょう。ではどうすれば抜けるのか？です。それを一言

でいえば、苦があっても苦を「気にしない」という達観です。「気にしない」という心境は気にかかることがあれば、たとえば病気をして医者から癌の疑いがあると言われたら精一杯治療する。治療に専念する。自分でやれることはすべてやる。けっして悔いを残さない。そうした生き方ができれば、苦が苦にならないのではないかとと思うのです。

人間の「苦」はその真相は、「執」ということだわりです。ですから、この執から脱け出すためには、身を粉にしなければなりません。つまり労苦をいとわず尽力することです。そうすれば為したいことは為されるし、為すことができなくても精一杯やってこうだと、納得が行くのではないでしょう。その境地が「与楽」と言われたのではないか、と思うのです。

浄泉寺からのお知らせ

● 報恩講 ●

十二月十四・十五日の報恩講の詳しいご案内は、後日お葉書にてお送りします。真宗門徒にとつて一年で最も大切な法要です。ぜひお参りください。

● 同朋会（月例法座） ●

浄泉寺では、毎月お勤めと任職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。

若坊守のひとりごと

新美南吉さんの『でんでんむし

のかなしみ』というお話がありま。一匹のでんでんむしが、ある日、自分の背中の殻の中には「かなしみ」がたくさん詰まっていることに気が付きます。どうしよう、もういきていられないと、他のでんでんむしに聞いて回ります。ところがどのでんでんむしに聞いて

ても「あなただけではいい。私の背中にもかなしみはいっぱいあります」と言われてしまいます。そこで初めて「かなしみを抱えているのは私だけではないのか」と気づき、「私は、私のかなしみをこらえていかなきゃならない」と言います。そしてもう嘆くのをやめたというところでお話は終わります。

このお話で大切なことは、みんなが苦を抱えているけれど、その苦はひとりひとりの孤独なものだということ。そして「私は、私のかなしみを生きていくのだ」と、嘆くのをやめたということ。地獄一定をすみかとする決めたということではないでしょうか。でんでんむしの顔はきつと晴々としていると思いませんか。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏(仏壇)に座る ③6 ～ 「御文」に聞く (2) ～

当流のおもむきは、信心決定しぬればかならず真実報土の往生をとぐべきなり。さればその信心といはいかようなることぞといえ、なにのわずらいもなく、弥陀如来を一心にたのみたてまつりて、その余の仏・菩薩等にもころをかけずして、一向にふたごころなく弥陀を信ずるばかりなり。これをもって信心決定とはもうすものなり。信心といえる二字をばまことのころとよめるなり。まことのころといは、行者のわろき自力のころにてはたすからず、如来の他力のよきころにてたすかるがゆえに、まことのころとはもうすなり。

〔御文〕1帖目第15通



「[意訳]浄土真宗の信心の要点は、如来さんに照らされて、真実を 御本尊向かって左側に掛けられ
見る眼を賜れば、どんなことがあっても、嗚呼これが私の人生であ ている浄泉寺の蓮如上人絵像
ったと引き受けて生きることができるとい点にあります。そのような他力の信心とは、自分の都合ですがつたり、捨てたりするような仏さんの拝み方ではなく、良いも悪いもひっくるめて、ありのままのこの私を照らし出してくださる阿弥陀如来のはたらきに深く頷くということなのです。そのことを信心が定まったということです。そのような他力の信心は、あてにならない自分の心で信じるか信じないかという頼りない信じ方ではないがゆえに“真実の心”ということが出来るのです。
「こうすれば、救われる」という条件付きの救いでは、次の瞬間何が起こるか分からないこの生活の中での救いは成り立たないのであって、如来さんの方から、あらゆることにとられる私の心を教えてくださるそのことが、私が救われるということなのです。」

今回も室町時代の蓮如上人が書かれた「御文」の言葉を紹介しました。ままたらない毎日にあつて「なるものはなるし、ならぬものはならぬ」と教えられるところに救いの大地があるようです。明治時代の僧侶・清澤満之先生は「天命に安んじて人事を尽くす」と、このような他力仏教の醍醐味を教えてください。


(浄泉寺若院・釋亜世)

令和6年(2024年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和5年(2023年)亡
三回忌	令和4年(2022年)亡
七回忌	平成30年(2018年)亡
十三回忌	平成24年(2012年)亡
十七回忌	平成20年(2008年)亡
二十五回忌	平成12年(2000年)亡
三十三回忌	平成4年(1992年)亡
五十回忌	昭和50年(1975年)亡

<発行元・問い合わせ>


 眞宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798
 〒656-0026 洲本市栄町4-3-43
 ホームページ <http://jyosenji.asei.info>